

アッヴィ(ABBV)

【セクター】 医薬品

信買

【市場】 NYSE

信売

【企業概要】

バイオ医薬品の大手。2013年にアボットラボラトリーズから分離、研究開発型医薬品事業を継承しました。免疫学、血液腫瘍学、神経系学、C型肝炎などが重点領域で、売上の約4割を占める関節リウマチ治療薬の「ヒュミラ」が主力薬です。2020年5月にしわ解消などに使われる「ボトックス」など美容向け医薬品に強みを持つアラガンを買収しました。グローバルに事業展開していますが、米国売上が79%を占めます（2022年12月期）。

【業績】（単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
21.12期	56,197	16,385	9.22	5.31	8.7	80.5	10.5
22.12期	58,054	18,795	10.57	5.71	9.8	72.1	12.5
23.12期（予）	53,125	19,512	10.76	5.92	11.8	117.4	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

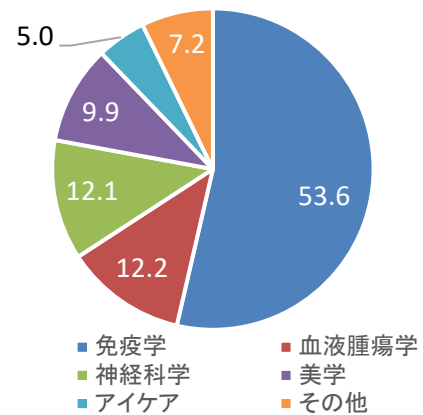
【主要指標】

主力薬の売上（2022年12月期）

薬名	効能	売上高 (億ドル)
ヒュミラ	関節リウマチ治療薬	212.4
スキリージ	尋常性乾癬治療薬	51.7
インブルビカ	B細胞性腫瘍治療薬	45.7
リンヴォック	関節リウマチ治療薬	25.2
ブレイラー	統合失調症等治療薬	20.4

（出所）会社資料よりSBI証券作成

分野別売上構成比（2022年12月期、%）



（出所）会社資料よりSBI証券作成

【会社の見方】

2023年に主力薬「ヒュミラ」（2022年12月期の売上構成比は39%）の米国での特許が切れ、売上は2022年12月期の212億ドルから2023年12月期の178億ドル、2024年12月期の136億ドルと減少見込みです。この影響を相殺するために2020年にアラガンを買収して「ヒュミラ」への依存度を下げ、さらに、これに変わる収益柱を育成中です。鍵となるのが尋常性乾癬治療薬の「スキリージ」と関節リウマチ治療薬の「リンヴォック」で、両薬の売上合計は2022年実績の77億ドルから2025年に175億ドル、2027年には210億ドルへ拡大させる計画です（2023年1月の会社資料より）。

【見通し・注目点】

4-6月期決算は、売上が前年同期比5%減、調整後EPSが同14%減でしたが、市場予想は上回りました。主力薬「ヒュミラ」の売上は前年同期比25%減（米国が同26%減、海外が同20%減）となったものの、1-3月期の35億ドルから40億ドルに増加して、特許切れによる売上減の影響が低下して安定化しつつある可能性が示唆されました。「ヒュミラ」の売上減を埋めると期待されている、「スキリージ」の売上は前年同期比50%増、「リンヴォック」の売上は同55%増と順調です。通期のEPSガイダンスのレンジを10.90～11.10ドルへ従来比で約2%引き上げました。

本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。